

## リゲンザ神父さまからのお正月プレゼント（宿題）

以下の旧約聖書に4人の女性が出てきます。

リベカ、デボラ、ヤエル、ダビデ王の妻ミカルです。

皆さんはこの4人の誰に似ていますか？ ぜひ読んでみて考えてください。

主だけが唯一の指導者である。

*Fr. Ligeza o.p*

聖書は、女性があまりでてこない、あつかいが小さい、という感想を聞きます。私はそう思いません。聖書の中の女性たちは、それぞれの枠の中で実に生き生きと振る舞います。また、その愚かしさを示すことによって私たちを正しい方向に導いてくれます。聖書のどこをどのよう  
に読んだらいいのかわからないという方のために今日は4人の女性をご紹介します。

創世記 24:34・58

そこで彼は言った、「わたしはアブラハムの僕です。主がわたしの主人を大層祝福され、彼は豊かになっています。主は彼に、羊、牛、銀、金、男女の奴隷、らくだ、ろばをくださいました。主人の妻サラは、年をとってから主人の息子を産み、主人は全財産をその息子に譲りました。主人はわたしに誓わせて言いました。『お前はわたしが住んでいる地のカナン人の娘の中から、わたしの息子の妻を選んではならない。お前は必ずわたしの父の家、わたしの親族の所に行って、わたしの息子の妻を選ばなければならない』。わたしが『その娘はわたしについて来ないかもしれません』というと、彼は答えました、『わたしがその前を歩んできた主が、み使いをお前とともに遣わして、お前の旅の目的を果

たさせていただきます。お前はわたしの親族、わたしの父の家から、わたしの息子の嫁を選ぶのだ。その時、お前はわたしに対する誓いから解かれる。またお前がわたしの親族の所に行っても、もし彼らがお前にその娘を渡さない場合には、お前はわたしに対する誓いから解かれる』。

そこでわたしは今日、泉の所に来て、言いました、『わたしの主人アブラハムの神、主よ、もしあなたがわたしの旅の目的を果たさせていただきますのであれば、わたしが泉のそばに立っていて、水くみに出てきたおとめに、〈水瓶の水を少し飲ませてください、〉と言ったとき、そのおとめが〈お飲みください、あなたのらくだにも水をくんであげましょう〉と答えたなら、そのおとめこそ、主がわたしの主人の息子のために定められた妻でありますように』と。

わたしが心の中で言い終わらないうちに、リベカさまが水瓶を肩に出てきて、泉に下りて行き、水をくみました。そこでわたしが、『どうか水を飲ませてください』と言いますと、彼女は手早く水瓶を下ろして、『お飲みください。わたしはあなたのらくだにも水を飲ませてあげましょう』と言いました。わたしは飲み、リベカさまはらくだにも飲ませてくれました。それでわたしは、『あなたはどなたの娘さんですか』と尋ねますと、彼女は、『わたしはナホルとミルカの子ベトエルの娘です』と答えた

のです。そこでわたしはリベカさまの鼻に鼻輪を、腕に腕輪を着けて差し上げました。そしてわたしは身をかがめ主を礼拝し、わたしの主人アブラハムの神、主をたたえました。主人のご兄弟のご息女を主人の息子に迎えるために、わたしを正しい道に導いてくださったからです。さあ、もしあなた方がわたしの主人に慈しみとまことを示すおつもりなら、そうおっしゃってください。もしそうでなければ、そうでないとおっしゃってください。わたしは右にするか左にするか、決めなければなりません」。

ラバンとベトエルは答えていった、「これは主から出たことですから、わたしたちはあなたに、善し悪しを言うことはできません。ご覧ください。リベカはあなたの前にいます。連れて行って、主が仰せになったとおおり、あなたのご主人のご子息の妻にしてください」。アブラハムの僕は彼らの言葉を聞き、地に伏して主を礼拝した。僕は銀や金の装身具や衣装を取り出してリベカに与え、その兄と母にも高価な品々を贈った。

僕とその供の者たちは飲み食いして、そこに泊まった。あくる朝、みな起きたとき、僕は言った、「わたしの主人の所に帰らせてください」。リベカの兄と母は答えた、「娘はもうしばらく、少なくとも十日ほど、わたしたちのもとに置いて、それから行かせましょう」。しかし、僕は彼らに言った、「主がわたしに旅の目的を果たさせてくださったのですから、わ

たしを引き留めないで、主人の所に帰らせてください」。そこで彼らは「娘を呼んで直接聞いてみましょう」と言って、リベカを呼び、「お前はこの方とともにいきますか」と尋ねた。するとリベカは、「行きます」と答えた。

士師記2:11・19

イスラエルの子らは主の前に悪と思われることを行い、バアルに仕えた。彼らは、エジプトの地から彼らの先祖を導き出した先祖の神、主を捨て、ほかの神々、すなわち周囲の国の神々に従ってこれを礼拝し、主を怒らせた。彼らは主を捨て、バアルとアシュトレトに仕えた。主はイスラエルに対して怒りを燃え上がらせ、彼らを略奪者の手に任せて略奪されるままにされた。主が彼らを周囲の敵の手に売り渡されたので、もはや彼らは敵に立ち向かうことができなかった。主が告げ、主が彼らに誓われたとおり、主の手は、彼らの行く先々で災いとなった。そのため彼らは非常な窮地に陥った。

主は士師たちを起こされ、彼らは略奪者の手からイスラエルを救った。しかし、彼らは士師たちにも耳を傾けず、ほかの神々を慕って姦淫を行い、それを礼拝した。彼らは先祖が主の命令を聞いて歩んだ道から瞬く間にそれ、先祖のようには行わなかった。主が彼らのために士師

を起こされたとき、主は士師とともにおられ、士師の全生涯を通して、彼らを敵の手から救われた。これは、圧迫し悩ます者のために彼らが呻き、主が彼らを憐れまれたからである。しかし、士師が死ぬと、彼らは元に戻って先祖よりもいっそう墮落し、ほかの神々に従い、これに仕えて礼拝した。彼らはその行いと、頑なに生き方を捨てなかった。

4:4・21

そのころ、ラビドトの妻、女預言者デボラがイスラエルを裁いていた。彼女はエフライムの山地のラマとベテルの間にあるデボラの棗椰子の木の下に座っていた。イスラエルの子らは裁きを求めて彼女のもとに上ってきた。

デボラは使いを送り、ナフタリのケデシュからアビノアムの子バラクを招いて言った、『さあ、タボル山に進軍し、ナフタリの子らとゼブルンの子らの中から一万人を動員せよ。わたしはヤビンの軍の司令官シセラと、その戦車と軍隊をキシヨン川でお前の所におびき寄せ、彼をお前の手に渡す』とイスラエルの神、主がお命じになっておられるではありませんか」。バラクは彼女に言った、「もしあなたがわたしとともに行ってくださるなら、わたしは行きます。しかし、もしあなたがわたしとともに行ってくださらないのなら、わたしは行きません」。そこでデボラは言っ

た。「必ずあなたとともにいきます。しかし、そのやり方ではあなたは誉れを受けないでしょう。なぜなら、主は一人の女の手でシセラを売り渡されるからです」。こうして、デボラは立って、バラクとともにケデシュに向かっていった。バラクはゼブルンとナフタリを召集し、一万人が彼に従って上っていった。

アビノアムの子バラクがタボル山に上ったという知らせを受けたシセラは、九百両の鉄の戦車全部と、彼に率いられていたすべての民をハロシェト・ハゴイムからキシオン川に召集した。デボラはバラクに言った、「さあ、今日こそ、主がシセラをあなたの手で渡されます。主があなたを先導されるではありませんか」。そこでバラクはタボル山を下り、一万人が彼に従った。主は、シセラと全戦車および全軍勢を、剣によってバラクの前でかき乱された。そこでシセラは戦車を捨て、徒歩で逃げた。バラクは戦車と軍勢をハロシェト・ハゴイムまで追撃した。シセラの軍勢はみな剣で打ち倒され、生き残ったものは一人もなかった。

シセラは徒歩でカイン人へベルの妻ヤエルの天幕へ逃げた。ハツオルの王ヤビンとカイン人へベルの家には親交があったからである。ヤエルはシセラを迎えに出て言った。「お立ち寄りください、ご主人さま。どうぞ、わたしのもとにお立ち寄りください。ご心配には及びません」。

そこでシセラは彼女の天幕に立ち寄り、彼女はシセラを敷物で覆った。シセラは彼女に「喉が渴いたので、水を少し飲ませてください」と頼んだ。ヤエルは乳の革袋を開いて彼に飲ませ、また彼を覆った。シセラは彼女に言った、「天幕の入口に立っていて、もし誰かがやってきて、『ここに誰がいるか』と尋ねたら、『いません』と答えてください」。しかし、ヘベルの妻ヤエルは天幕の杭を取り、手に槌を持ってそっと彼のもとに近づき、そのこめかみに杭を打ち込み地面にまで刺し通した。疲労のあまり熟睡していた彼は、こうして息絶えた。そこへバラクがシセラを追ってやって来た。ヤエルは彼を迎えに出て言った。「さあ、お探しになっている男をご覧に入れましょう」。バラクが彼女の天幕に入って見ると、何とシセラが倒れて死んでおり、そのこめかみには杭が突き刺さっていた。

サムエル記下 6:12・23

「主がオベド・エドムとすべてのものを、神の櫃の故に祝福された」とダビデに知らされた。そこで、ダビデは行って、喜びのうちに、神の櫃をオベド・エドムの家からダビデの町に運び上げた。主の櫃を担ぐ者が六歩進んだとき、ダビデは雄牛、しかも肥えたものを犠牲としてささげた。ダビデは亜麻布のエフォドをまとい、主の前で力の限りくるくる踊っ



た。ダビデとイスラエルの家はみな歓声をあげ、角笛を響かせながら、主の櫃を運び上げた。

主の櫃がダビデの町に入ったとき、サウルの娘ミカルは窓から見下ろしていたが、ダビデ王が主の前で跳ねたりくるくる踊ったりしているのを見て、心の中で彼を軽蔑した。彼らは主の櫃を運び入れ、ダビデがそのために張った天幕の真ん中の定め場所に安置した。ダビデは焼き尽くす献げ物と和解の献げ物とを主の前にささげた。ダビデは焼き尽くす献げ物と、和解の献げ物をささげ終わったとき、万軍の主の名によって民を祝福した。そして民全体、イスラエルのすべての民衆に、男にも女にも一人ひとりに、パン菓子一つ、棗椰子の菓子一つ、干しぶどうの菓子一つを配った。そして民はみな立ち去り、各々家に帰った。

ダビデが自分の家族を祝福するために家に帰ると、サウルの娘ミカルがダビデを迎えに出て、こう言った、「イスラエルの王は、今日、何と威厳がおありになったことでしょう。ならず者が恥じもせず裸になるように、王は今日、家来のはしためたちの見ている前で裸になられたのですから」。ダビデはミカルに言った、「お前の父やその家の誰でもなく、このわたしを選んで、主の民イスラエルの君主に任じてくださった主の

前なのだ。わたしは主の前でならこれからも踊る。今までよりもさらに見下され、自分の目に下賤に見える者となろう。しかし、お前の言うはしためたちからは尊敬されるだろう」。サウルの娘ミカルは、死ぬまで子がなかった。

いかがでしょうか。リベカの躊躇ない決断力や、デボラの冷静な強さ、ヤエルの豪胆さには圧倒されます。そして幸せであるはずの王の妻の姿には考えさせられます。受け止めるのはみなさんです。ぜひ読んでみてください。